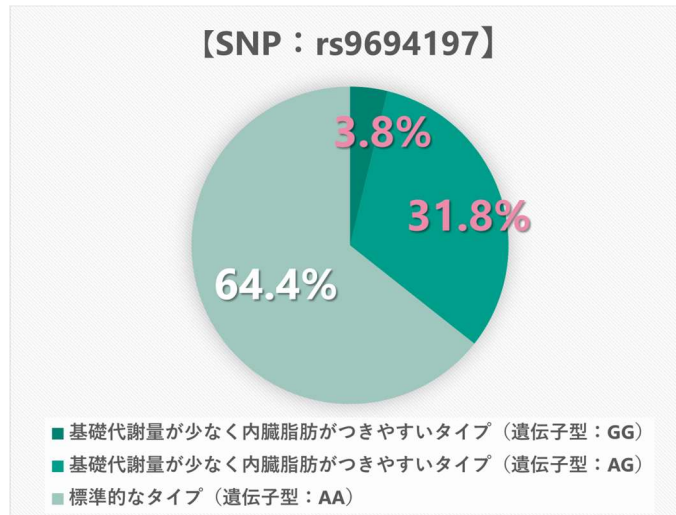


・日本人はヨーロッパ系アメリカ人と比べて内臓脂肪がつきやすい

当社の遺伝子解析のデータによると、「基礎代謝と内臓脂肪」に関する遺伝子型【SNP：9694197】において、日本人の約36%が「基礎代謝量が少なく内臓脂肪がつきやすいタイプ（遺伝子型：GG、またはAG）」に該当しました。

さらに、40代の日本人男性とヨーロッパ系アメリカ人男性を対象に、CTスキャン検査を実施して、おなかの内臓脂肪と皮下脂肪の面積を比較した研究では、日本人はヨーロッパ系アメリカ人より腹囲が小さかったものの、腹囲の大きさが同じ人どうしで比べると皮下脂肪を1としたときの内臓脂肪の面積は日本人が1.02、ヨーロッパ系アメリカ人が0.75という結果でした。つまり、「日本人男性の方が内臓脂肪がつきやすい」ことが報告されています。^{※1}

※1 根拠とする文献は次の通りです。Kadowaki T, *et al.*, 2006 "Japanese men have larger areas of visceral adipose tissue than Caucasian men in the same levels of waist circumference in a population-based study." Int J Obes. 30(7):1163-5.



・日本人の約4人に3人が「皮下脂肪がつきやすい」遺伝子タイプ

一方で、「基礎代謝と皮下脂肪」に関する遺伝子型【SNP：1800592】において、日本人の遺伝子型の割合は、「基礎代謝量が少なく皮下脂肪がつきやすいタイプ（遺伝子型：GG）」が24.5%、「皮下脂肪がつきやすいタイプ（遺伝子型：AG）」が49.1%でした。つまり、日本人の約74%、約4人に3人が「皮下脂肪がつきやすい」遺伝子タイプに該当しました。

